

2021 年度(令和3年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番47	福山市立駅家小学校
最終更新日	2021年(令和3年)4月7日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力 協調性・思いやり
○いずれの学校も、設定された目標の達成に向けて、さまざまな角度から工夫をこらしながら取り組みをされていることが分かった。 ○引き続き生徒一人ひとりに目を向けた質の高い教育を保護者、地域と連携を図るなかで展開していただきたい。 ○目標や評価は大切だが、今一度学校教育とはどうあるべきかを考えていただきたい。	○落ち着いた生活はできている子どもが多いが、自分から課題を見つけたり、創意工夫して新しいことにチャレンジしたりする態度が、授業の中で十分に育成できているとは、言えない状況である。 ○前年度は感染症対策のため地域での活動は大きく制限されてきた。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒
		中学校区として統一した取組等	○「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う。 ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。 ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力 協調性	
高い志をもち、たくましく生きる子どもの育成	めざす子ども像	コミュニケーション力 協調性	
学校教育目標		全体	自分の考えを持ち、他者に対してわかりやすく伝える児童 他者と積極的に関わり、自分とは異なる他者の考えを受け入れ、ともに課題を解決しようとする児童
主体的に学び、豊かな心を育み、たくましく生きる力の育成		1・2年生	自分の考えをわかりやすく最後まで話したり、友達の話に反応しながら聞いたりする力 相手の存在を認め、なかよく一緒に活動しようとする態度
現 状		3・4年生	自分の考えの根拠を明確にして話したり、友達のことを聞き、自分の考えと比較して反応したりする力 相手の気持ちを考えながら、積極的に関わり、協力して活動したり話し合ったりしようとする態度
＜児童＞ ○全国学力状況調査において、国語の通貨率が県平均を下回っている。 ○遊具を利用して遊ぶ児童が多く、それに伴うけが多い。 ○授業開始前に着席し、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨むことが定着してきた。	研究	テーマ 児童が「学ぶ楽しさ」を実感できる授業の創造 ー児童の多様性を尊重した指導の個別化を通してー	
＜授業＞ ○子ども主体の学びの実現に向け、教える事と学ぶことのバランスを考えて授業をする教員が増えた。 ○ペアやグループでの対話活動を積極的に取り入れ、思いや考えを伝える場を設ける事により、学びあいが活性化している。 ○児童の学ぶ意欲を向上させるための魅力的な課題設定や学びを深めさせる場面を意識した単元構成の工夫が必要である。	内容等	○特性や学習進度等に応じた、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定。 ○児童自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を養う。 ○学習の個性化につなげる。	
	めざす授業の姿	児童が主体的に学び、友達と対話しながら深める授業 先生 児童 ○児童一人一人を丁寧に見取った授業 →自分の状況に応じた学びを進められる授業 ○教える事と学ぶことのバランスを考えた授業 →教わったことを活かし、使えるまでの道筋を楽しめる授業 ○単元構成が工夫された授業 →学びたいという意欲が湧く授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 駅家小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)						
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策		
3	「学ぶ楽しさ」を実感できる子どもの育成	★	継続	教わったことを活かし、使える道筋を楽しめる授業づくりを進める。	一人一人の実態に応じた「学び」方の工夫をする。(教材の活用の仕方等)	いろいろな授業の学びが面白いと答える児童80%											
					教えることと学ぶことのバランスを考える。	子供の「学び」を意識したと答える教職員100%											
3	「生きる喜び」を実感できる子どもの育成		継続	自己肯定感と自己効力感を高める。	学校生活の中で見つけた「思いやり」や「やさしさ」を感じる行動を取り上げて顕彰する。	「学校が楽しい」と答える児童90%以上											
					挨拶や善行など、集会や通信で紹介された話や言葉について学級で取り上げる。	「友達や先生、地域の方に挨拶やいいところをほめられたことがある」と答える児童75%以上											
3	地域に貢献する子どもの育成		継続	地域の一員としてボランティア活動を推進する。	ボランティアカードを活用し、校内や地域でのボランティア活動を奨励し顕彰する。	「学校や地域のために役立つことをしている」と答える児童75%以上											
3	教職員の働き方に対する意識の醸成	★	継続	勤務時間を意識して、全職員で働き方改革を進める。	授業づくりのための放課後の時間を確保する。	時間外勤務月45時間以内の教員の割合100%											

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。